

# 奈良女子大学 アジア・ジェンダー文化学研究センター 第4回センター研究会

## ◆16:30～17:30 横田 弘文 先生

(神戸女学院大学人間科学部環境・バイオサイエンス学科)

### 「水環境中の医薬品による魚類の繁殖及び形態異常」

近年、服用後の医薬品が下水処理過程で十分処理されずに河川等へ流出し、水圏生態系に影響を及ぼしている可能性が指摘されています。その中でも解熱鎮痛剤は多くの成分が高頻度に検出されており、かつその薬理作用による魚類への繁殖影響が懸念されています。私達は解熱鎮痛剤の中で最も薬理活性の強いジクロフェナクを対象に、メダカを用いた曝露実験を実施し、ジクロフェナクはプロスタグランジン産生抑制により排卵阻害を引き起こすことを見出しました。さらに、ジクロフェナクに曝露されたオスメダカにおいて、下顎が欠損する特徴的な形態異常も観察されています。今回は、メダカ以外の魚種も含め、ジクロフェナク曝露による魚類の繁殖及び形態異常に関する研究事例をご紹介します。

## ◆17:30～18:30 安田 恵子 先生 (研究院自然科学系)

### 「哺乳類の卵巣で起こる卵胞選別のしくみ」

ヒトやウシなどの哺乳類に属する動物では、一度に生まれてくる子供の数はおよそ決まっています。どのような仕組みによるのでしょうか。哺乳類の卵巣の中には卵を发育させるための「卵胞」という構造があります。十分に発達した卵胞からは卵が卵巣外に放出され(排卵)、精子と出会って受精します。排卵というゴールに向かって多数の卵胞が发育を開始しますが、排卵できる卵胞の数は少数で(ヒトではたった一個)、ほとんどの卵胞は发育途中で退化します。卵巣内で卵胞を发育するか、退化させるかという選別が行われているはずですが、私達の研究テーマである「哺乳類の卵巣で起こる卵胞選別の仕組み」について紹介します。

◆日時：2018年3月16日(金) 16:30～18:30

◆場所：E321

センター員以外の方も是非ご参加ください。

申し込みは不要です。

主催・問合せ：奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター  
(コラボレーションセンターZ202)

Tel: 0742-20-3611 E-mail: a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp